

研修報告 A班1グループ

1. 発表テーマに関して

(1) 発表テーマ 「守破離 ～個性ある学生を育てるために～」

「守破離」とは日本の伝統芸能における人材育成の段階を示す概念であり、「個」を打ち出す過程を表している。A班1グループでは、大学が「個性ある学生」を育てるにはどうすればよいか下記の「守破離」の流れに沿って議論を進めていった。

	伝統芸能における意味	個性育成における意味
守	基本の型の修得	モラルや常識などの人間としての基礎を固める
破	自己流の研究	自分を知る
離	型からの解放	自立、守・破を達成した時の姿

伝統芸能において個を確立するためには、基本となる型を「守」ることが前提となっている。その基礎があるからこそ、型を自分と照らし合わせ既存の型を「破」ることができる。「破」することで自分の個性を生かした型をつくりだすことができる。最終的には自分自身についてよく理解しているからこそ、型から「離」れて自在に自己を生かしていくことができる。

A班1グループではこの考え方に注目し、大学が学生の個性を育てるために、学生の育成における意味での「守破離」それぞれを順に超えていけるよう、大学職員として学生に提供できることは何か話し合っていた。なおテーマとして「個性」を育てることを選んだ理由は、下記の(2)テーマ設定理由の経緯による。

(2) テーマ設定理由

テーマを決める前段階として「大学の役割」と「大学の現状」に関して話し合った。A班1グループで出された意見は下記の通りである。

大学の役割

《各班員意見》	①人材育成 ②学生を就職・社会へつなぐ場 ③学びの場 ④地域貢献
---------	-------------------------------------



共通点を洗い出す→②③④全て「①人材育成」につながる



《班全体意見》 「 <u>人材育成</u> 」が大学の役割

大学の現状

学生	・やりたいことが不明瞭で、目的なしに大学へ進学し、無為に学生生活を送っている。 ・画一的な学生が多い。
教員	・授業の質が異なり、学生がやりたいことに気づけない。
職員	・様々な企画や仕組みがあっても学生・教員に対して周知しきれていない。

→上記の画一的・無目的に過ごす学生の現状から、個性の育成に注目し、最終的に大学の役割は「教育・研究を通して、社会に貢献できる人材（個性）を育てること」になった。

A班1グループは、学生にやりたいことを見つけてもらい、充実し満足できる学生生活を送ってほしいと考えた。そして、無為に過ごす学生の現状を打破するために、「人材育成」という大学の役割を発揮させる上で鍵となるのは「個性」の育成であると考えた。

学生にとって、周りに合わせて漠然と過ごすのではなく、自分のやりたいこと・目的を見つけだし、主体的に学生生活を送ることが重要である。つまり、自分自身のことをよく理解した個性ある学生になることで、自分のやりたいことに力を注ぎ、自身の思い描く未来に向けて充実した学生生活を送っていき、さらには社会に出ても自立して生きていける人材に成長できる、と考えたのである。

以上のことから「個性」を核とし、大学の役割を「教育・研究を通して、社会に貢献できる人材（個性）を育てること」と考え、テーマを「守破離 ～個性ある学生を育てるために～」に決定した。

2. 現状を打破し、個性ある学生を育てる解決策の検討

どのようにしたら大学は人材育成の役割を果たせるか、個性ある学生を育てる方法をグループ内で話し合った。その際、考える道筋となったものがテーマにも掲げている「守破離」の流れである。

守、破、離の流れに沿い、それぞれの段階をひとつずつ達成していけるようサポートができれば、大学は個性ある人材を育てると考えた。

学生が「守破離」の段階を順に踏んでいくことができるよう A 班 1 グループで考えた、①それぞれの段階での具体的な目標、②サポート方法、③ICT 活用の提案は下記の通りである。

「守」: 人間力を身につける

①具体的な目標	②サポート方法	③ICT 活用の提案
1.モラルや常識を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 基礎教育や学期ごとのオリエンテーションで指導 学年や時期ごとに内容を合わせる 日頃の窓口で指導する 	<ul style="list-style-type: none"> e-learning を利用したマナー講座 →入学前であれば「大学生となる心構え」 →就職活動前であれば「社会人マナー」
2.大学での目的や目標を見つける	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の多種多様なモデルケースを示す →大学時代に、いつ・どのような履修・課外活動をし、どの業種に就職を決めたか →自分の性質・興味にあったモデルを見て学生生活を送る上で参考にする 在学生の活動を紹介する →傾向と、具体的な能力/知識も掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト等で検索可能にする →研究室ごとの就職進路データ →多種多様なモデルケース 大学のブログや SNS に情報を掲載 ステークホルダーネットワーク

「破」: 自分を知る

① 具体的な目標	② サポート方法	③ICT 活用の提案
1. 多様な価値観の人と交流する	<ul style="list-style-type: none"> 学生による体験談の講演 (例: 留学、就職に関すること) 学生を地域貢献に参加させ、多様な価値観を知る。 PBL (Program Based Learning)	<ul style="list-style-type: none"> 講演会を記事化、配信 大学のブログや SNS に情報を掲載
2-1. 自分の個性を発見する	<ul style="list-style-type: none"> 身につく具体的な能力が見える化する 例: シラバス上で科目ごとに身につく力を簡潔に提示 例: 課外活動で身につく力を簡潔に提示 →卒業までに履修・経験した活動で身についた力をレーダチャート化する →一目で自分の強み・個性・特徴がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間割、成績表が一望できるシステム →ポータルサイトに 「おすすめ」機能システム →履修、経験で自分に近い傾向の人を表示 →科目、課外活動をよりの確に周知できる cf. アマゾンの「おすすめ」機能
2-2. 学生の個性を理解・把握する (個人レベルだけでなく組織間でも)	<ul style="list-style-type: none"> 学生カルテを作成し、システム上で教員、職員間での情報の共有化とやり取りの効率化を図る 教員: 授業態度や、出席状況、課題提出状況等を見て気になる学生の情報を上げる 職員: 成績や課外活動の生活状況チェック、窓口対応等を通じて気になる学生の情報を上げる →情報が上げられたら(カルテ)閲覧権限者に Notice mail、→対応方法を考える 成績、出席情報を見て対象を絞り対面式の面談実施 	

3. 最後に ~「守・破」を達成した「離」の姿~

「守」において人間としての基礎力を固めた学生は、「破」において自分の個性・強みなど知る。そうすることで社会に飛び立つ際には下記のような人材へ成長している。これが「離」の姿である。

- 目的意識がある/主体性がある
- 自分なりにやり方を改善していける、考えられる
→ものごとを受動的に指示通りこなすのではなく、自分の個性・強みを生かして取り組める
- (いい意味で)まわりを気にしない
→「自己」が確立されていることで、周りに惑わされることなく自分の納得する道を歩める

「守・破・離」の過程を経ることで、社会に貢献できる人材 (個性) を育てることのできる大学を目指していきたい。